

## 日本海水学会第65年会見学会および第14回若手の集いを終えて

徳島大学 藪谷 智規\*

日本海水学会第65年会見学会と第14回若手の集いを2014年6月18日(水)に実施いたしました。見学会は沖縄県北谷町 沖縄県企業局海水淡水化センターの見学でした。参加者は当初の計画を大きく上回る53名となりました。あいにく当日の天気はぐずつき模様でしたが、観光バスを貸し切り北谷町に向かいました。海水淡水化施設の職員の方から沖縄の水事情と淡水化センターの施設概況について解説がありました(写真1)。沖縄県は大規模河川が無く、かつて渇水時には頻繁なる断水が常態化していた経緯があります。懇親会の比嘉実行委員長からのお話にも有りましたが、半年近くも断水が余儀なくされており、安定な水供給は沖縄県民にとっての悲願でした。そのような中、海水淡水化施設の建設が行われ、運用されております。日量5千トンの処理能力を有する逆浸透ユニット(写真2)を8基携えており、計4万トンの処理能力を持つ国内有数の施設であります。もちろん、海水学会参加者からは、膜へのスケール付着、洗浄法など逆浸透膜関連、鹹水の処理法、荒天時の取水など海水学会員ならではの

の質問がなされ、活発な質疑応答がなされました。その後、施設案内があり、実際に逆浸透モジュールを見学いたしました。おみやげとして、パンフレットとともに海水淡水化処理水であるその名も「海淡水」(非売品)をいただきました。(後日談:1本をおみやげに持って帰りました。ラベルを一目見た妻から「海水なのか淡水なのかどっちなの?」という質問に対し、「海水だったけど今は淡水なんだよ」という禅問答のようなやりとりがありました。)1時間ほどで見学会は終了し、那覇市内へ戻りました。見学会の開催にあたり、センターの皆様には多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

その後、国際通りにある沖縄料理店「とうばら一」にて若手の集いを開催いたしました。乾杯のご発声は東郷育郎さん(サンアクティス)に行っていただきました。現役学生から自称若手(他称シニア層)まで、所属、世代を超えた交流がありました(写真5)。これこそ学会の真の意義であると思います。舞台上では沖縄の歌が実演され、われわれも飛び入り参加して踊り、



写真1 海水淡水化センターでの施設概況の説明

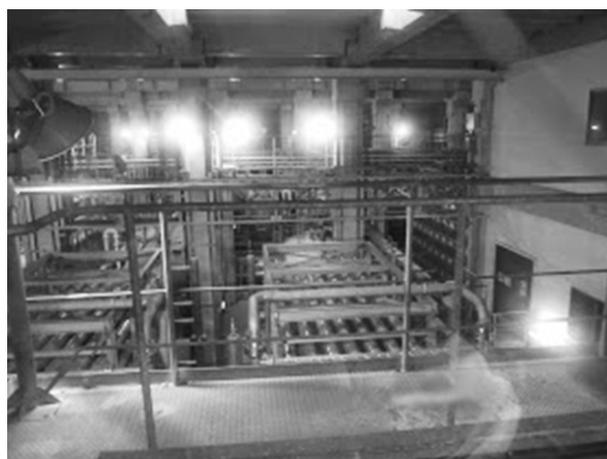


写真2 逆浸透ユニット

\* 徳島大学工学部化学応用工学科  
Tel: 088-656-7413 メール: yabutani@chem.tokushima-u.ac.jp

歌いました（写真6）。楽しいひと時でありました。総勢39名の参加をいただき、盛況のうちに会はお開きとなりました。

遠隔地での若手会の開催でもあり、会場、参加者の確保等心配しておりましたが、行ってみますと見学会、

若手の集いとも例年以上の参加があり、幹事として参加者各位に心より感謝する次第です。なお、この会を開催するに当たり、若手会の皆様、年会実行委員会、日本海水学会西日本支部にご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。



写真3 施設より遠望する海（この沖の海底に取水口があります。）



写真4 見学会参加者一同



写真5 若手の集い



写真6 若手の集いにて 有志による踊りへの飛び入り参加